

墨田区消防団運営委員会答申（案） 骨子

諮問事項

切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について

課題 1 消防団員の負担軽減と活動環境の最適化が重要である。

検討事項1-1 消防団活動の効率化による負担軽減について

① 消防団専用アプリ等の導入による効率化や情報共有

現段階では、団員間の連絡・情報交換は、LINE等の既存のSNSを活用している。さらに効率化を図るため、カレンダーアプリを活用共有すれば、活動予定や行事情報を得ることができ、結果として参集率の向上が望める。

将来的には、災害出場団員の把握、出動手当管理、被服管理及び情報連絡等すべての業務を一つのアプリ内に集約することにより、効率化による大幅な負担軽減が図れることから、消防団専用アプリの開発を優先して望むものである。

② 各種資機材の機能性、利便性向上に向けた改善方策の検討

消防団員の高齢化や人材確保の課題に対し、各種資機材の有効性を再評価した上で、可搬ポンプ搬送車及び資機材の軽量化・コンパクト化・電動化を推進し、性別や年齢、作業人数に左右されず、安全に活動できる体制を確立することで、災害対応力の底上げを図る。

③ 従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討

特別区内の消防団で「新たな消防団点検」を試行している消防団に対するアンケート結果（資料2）では、「訓練として有意義」という回答が97.8%、これまでの消防団点検と比較すると「よかった・とてもよかった」が89.1%、事前準備及び訓練の負担面では、「負担軽減・同程度」の回答が68.1%、「負担が増えた」との回答は15.9%であった。

一方で、従来の点検は「式典」という感じであったが、「新たな消防団点検」では多くの団員が訓練に参加でき、実戦的内容の活動点検であり、「今後も続けてほしい」を希望する回答が83.8%であったことから、今後、墨田区においても儀礼的な内容よりも実戦的な訓練を取り入れた「新たな消防団点検」の検討していきたい。

④ 操法大会（訓練含む）の工夫や改善などへの提案

現行の操法大会の審査項目は、規律と時間が重視され、ある意味「競技」的な要素が認められる。本来、消防操法とは、規律と基本、安全確実な行動など、消防活動における基礎固めを目的とした活動要領である。このことから、消防操法を通して基本的な訓練を継続し、年に1回基本的活動の確認を行い、その後、段階的に実戦的な訓練へ移行し、活動能力向上を図っていく必要がある。

将来的には、規律、タイム重視の面については、緩和していくことも一つの操法大会のあり方と考える。

検討事項1-2 多様な主体との連携による被害軽減方策について

① 各区、防災関係機関と連携したさらなる入団促進

(1) 従来の自治会・町会経由の勧誘だけでは、若年層や新住民へのアプローチに限界があることから、各区（自治体）や関係機関（警察・自衛隊・民間企業等）が持つ発信力やネットワークを相互にシェアし、単独では届かない層への消防団の魅力を届ける。例えば、消防団の活動日（始式、操法大会、区総合防災訓練等）に合わせ、区の公式アカウントからイベント紹介し、消防団の認知度を上げる。

(2) 区の広報誌は行政情報が豊富なため、消防団募集は「自分ごと」として捉えてもらいにくい一面もある。若い世代に対しては、長文テキストよりも、短い動画が圧倒的に響くことから「活動のカッコよさ」や「身近さ」を取り入れたPR動画を、区民の多くが利用する区庁舎や各種イベントで繰り返し広報を展開する。

② 町会自治会や学校コミュニティ等との更なる連携強化

(1) 消防団員入団時のアンケート結果（資料3）によると、入団のきっかけは「消防団員に勧められて」が圧倒的に多く、入団理由の一つとして「地域の力になりたい」とともに「仲間づくり」という要素も推測される。在住の消防団員の中には町会役員も多く、街のイベントや防災訓練に企画運営側として活躍しているので、連携して魅力を伝えていく。

(2) 学校連携として、昭和26年から続くはたらく消防の写生会において、消防団にも被写体として支援を依頼している。子供たちの写生画を観たPTA等にも存在を認知してもらう効果が期待できる。

(3) 子育て世代の団員が「いざというとき家族を守るスキルが身につく」という視点で消防団の魅力を同世代のコミュニティに伝えていけるよう働きかける。ただし、現役団員に過度の負担とならないよう、広報や教育に特化した「機能別団員」の活用を考慮する。

(4) 区、消防職員及び団員が一丸となってあらゆる機会において消防団活動を

PRし、「声掛け」による入団促進を図る。

③ 在留外国人、外国人観光客への防災指導等に関する検討

- (1) 外国人には、言語や文化の違いから災害リスクが正確に伝わりにくいことから、外国語に長けた団員を機能別団員として配置し、広報活動のほか災害時の避難誘導への従事を検討する。
- (2) 外国人の入団は、言葉、文化の違いのほか様々な課題が存在することから、東京消防庁で各消防団長に意見を聞きながら検討している。

課題2 災害対応力の強化と訓練の実効性を高めることが重要である。

検討事項2-1 首都直下地震を想定した実戦的な訓練の定着について

① 現行の訓練内容や方法の再評価による、効果的かつ効率的な訓練推進方策の提案

基本訓練に加え、過去の震災の教訓を反映した、より実戦的で臨機応変な判断を求めるカリキュラムにブラッシュアップする。

② 東京消防団eラーニングシステムを有効に活用した教育訓練体系の構築
「礼式」「新入団員教養資料」「消防操法」等の座学・基礎知識は、eラーニングによる習得を原則とする。これにより、集合訓練を実技や応用訓練に特化させ、時間的効率を最大化する。

③ 訓練経過や訓練内容の「見える化」（アプリとの連動など）の推進方策の検討

システムをブラッシュアップし、訓練経過、習熟度及び訓練記録をデータ化してアプリ上で「見える化」し、団員個々のスキルに応じた段階的な指導を可能にする。

④ 実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進

消防署隊との連携訓練を「パッケージ化」し、中長期的な計画に基づいて定期的に実施する。火災対応訓練や自然災害時の図上訓練により指揮命令系統の確立や相互の連携を確実なものとする。

⑤ 震災等における長期間の活動継続を視野に入れた訓練の検討と課題の抽出

震災時における長時間活動継続を見据え、消防団員の交代要領等について課題抽出の必要があるが、団員の拘束時間による負担が増すため、訓練の実施方法は慎重な検討が必要である。

検討事項2-2 消防団員自らが企画実施する主体的な訓練の推進と充実について

① 各消防団の地域特性に応じた訓練内容、方策の検討

- (1) 「住宅密集地（木密地域）」「商業地域」「繁華街」「河川沿い」など各消防団の管轄地域における特有のリスクに特化した火災対応・水災対応訓練を、団員からのアンケートやヒヤリングを基に企画・実施する。
- (2) 平日の夜間や土日の短縮時間など、本業や家庭、消防団活動とのバランスを取り、柔軟な訓練スケジュールを設定し、参加率の向上と負担軽減を図る。

② 方面訓練場や消防署訓練施設の有効活用に向けた方策の検討

近隣住宅への騒音等の課題を検討して、安全かつ実戦的な訓練ができる環境を確保するとともに、大規模災害時を想定した隣接する消防団との合同訓練を定期的実施していくためにも、方面訓練場での集中的かつ実戦的な訓練について、引き続き計画・推進していく。

1 消防団員のアンケート結果

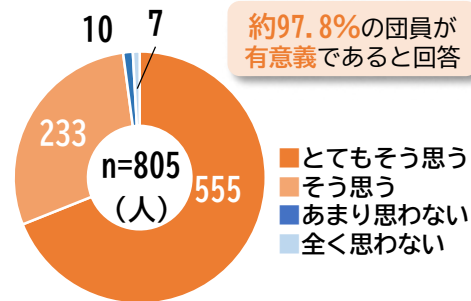
団員



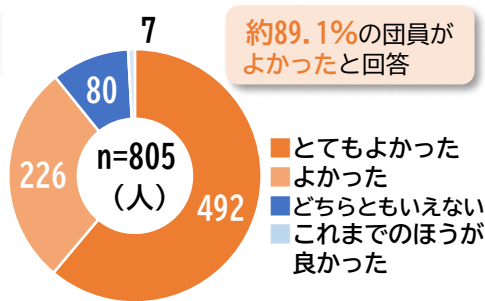
① アンケート結果

実施消防団	玉川、成城、渋谷、赤羽、滝野川、江戸川 小岩、葛西、荏原、王子、品川、大井、世田谷
参加人数	13団 合計1207名
回答人数	805名（回収率66%）

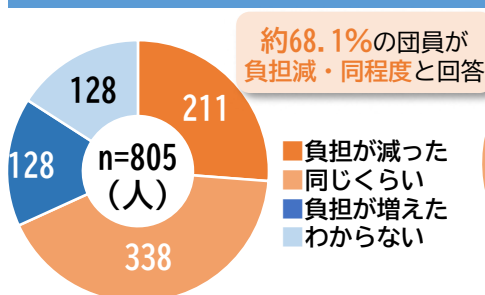
ア 今回の消防団点検は「訓練」として有意義でしたか



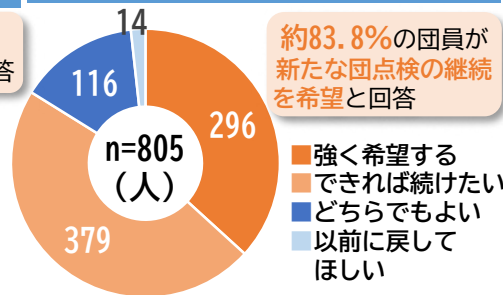
イ これまでの消防団点検と比較してどうでしたか



ウ 団点検に向けた事前準備や事前訓練の負担について



エ 今後もこの形式の消防団点検を続けて欲しいですか



② 自由記述（抜粋）

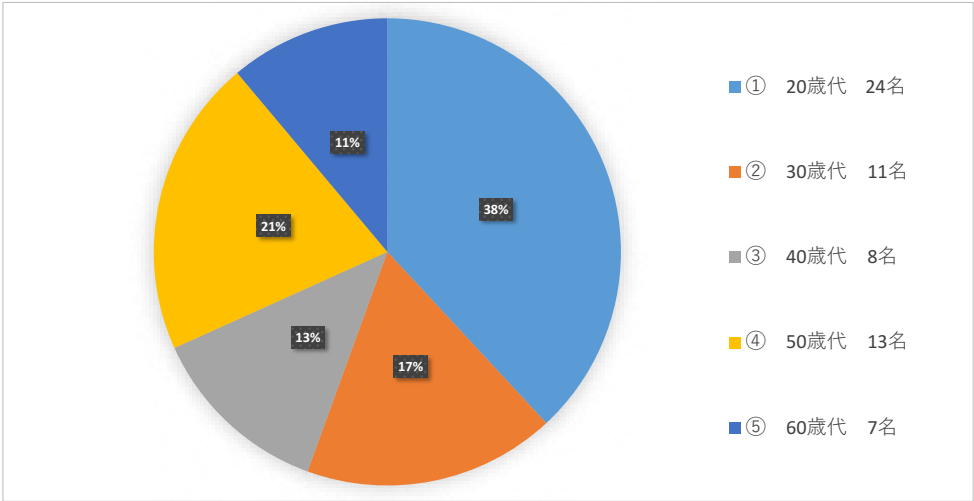
- ◎ 多くの団員が訓練参加でき、実戦的内容の活動点検であり、震災に備えた取組でとてもよかった。
- ◎ 職員の方のデモンストレーションを見せていただき、実際に自分たちで訓練する事が出来てとても勉強になる点検だった。
- ◎ 実災害を想定した活動点検が今後も必要だと思う。
- ◎ 従来の点検は「式典」という感じであったが、今回の点検は技術向上に有意義な点検であると感じた。
- ◎ 防火服や防火帽を着衣し、より実戦に近い点検を今後も強く希望する。
- ◎ 来賓向けの点検でなく、団員自身や地域貢献のための点検と感じられた。
- ◎ 実戦的な訓練で、消防署の方に丁寧に指導していただきとても勉強になったので、これからもこの形式の団点検を継続してほしい。
- ◎ 操法大会の実践も必要だと思うが、日頃から一人一人が放水を伴う訓練等をしていれば、災害現場での対応力を向上できると思うので、本点検は良かった。
- ◎ 実戦的な内容を消防署員から直接指導していただき、その内容を団点検とするのはよかった。
- ◎ 今までには区内合同点検でマンネリ化の傾向にあり、演技披露の面が強かったことから、今回の活動メインの点検は実戦的でありよかった。
- ◎ この方法だと、内輪だけの行事となり、地域住民に消防団をPRする場が少なくなってしまう。
- ◎ 同じ区内の他の団との交わりがないと士気の高さが分からないため、合同点検も必要である。
- ◎ 活動を点検する場合、評価と指摘、改善のサイクルも必要である。

肯定的な意見

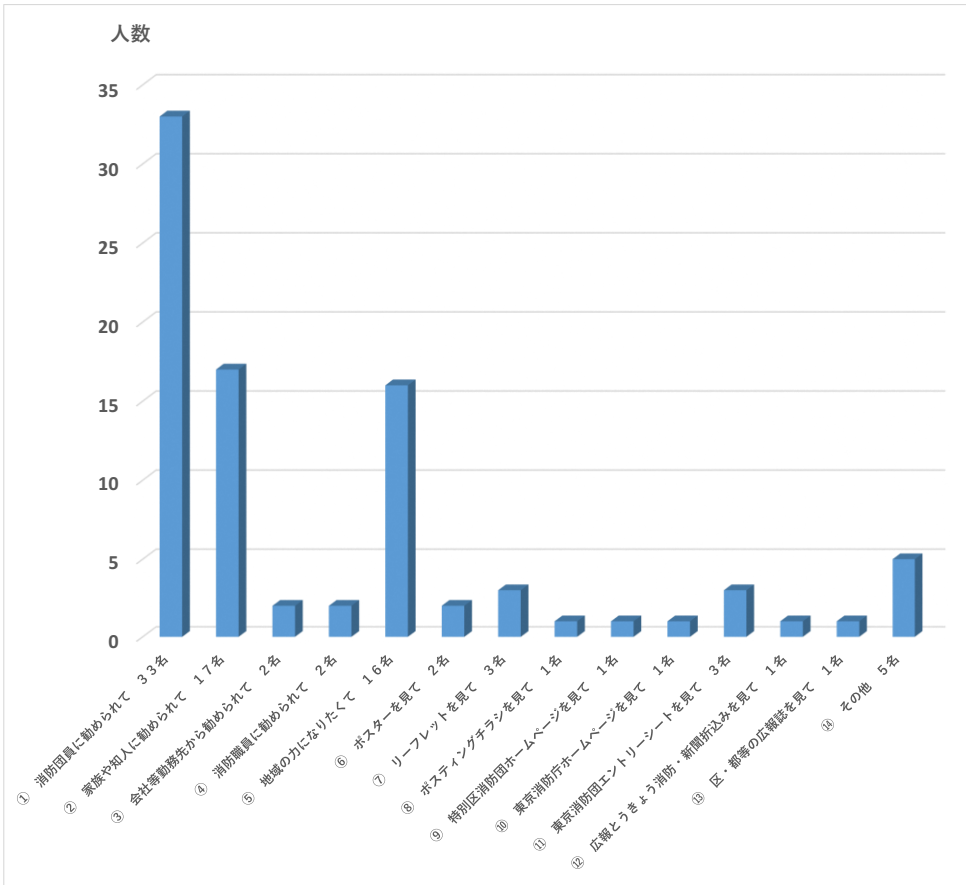
要検討

本所・向島消防団新入団員アンケート（令和6年4月～令和8年6月）

新入団した団員63名の年代別

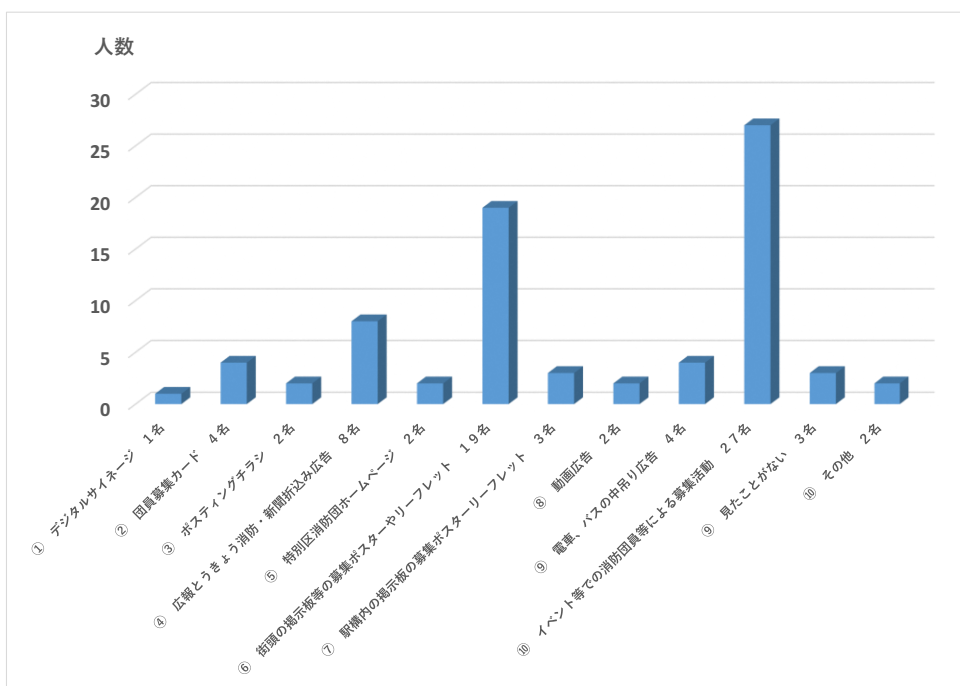


設問1 入団した大きなきっかけは何ですか。（複数回答あり）



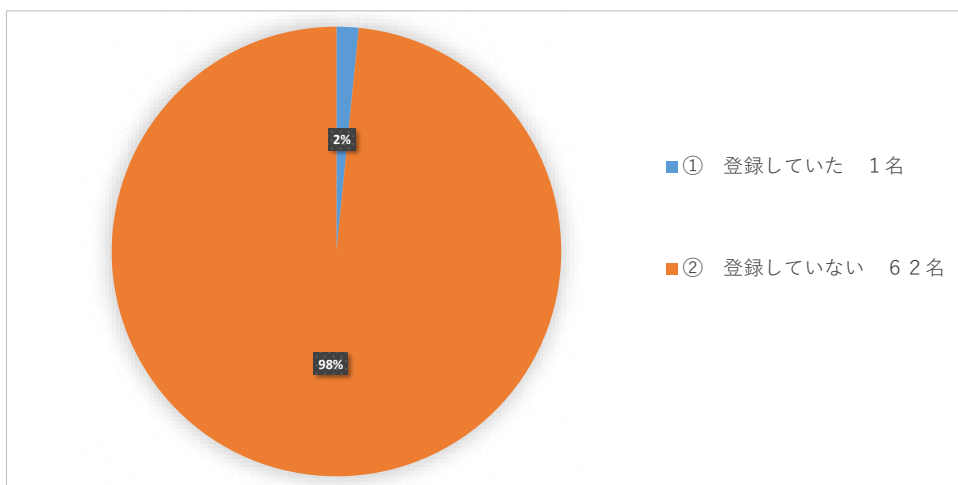
⑩その他（将来のため、以前祖父が団員だった、興味があった、過去に団員で仕事の関係で戻ったため）

設問2 消防団員募集の広告を見たことがありますか。（複数回答あり）

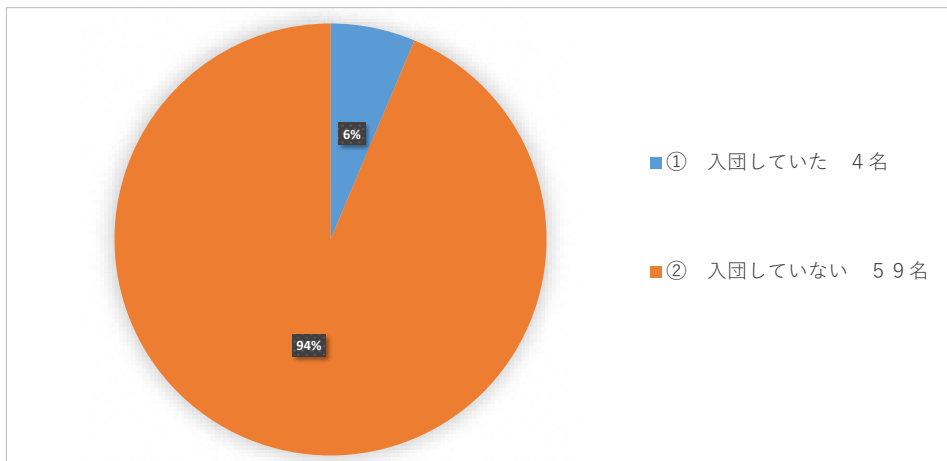


⑫ その他（大学内の広告）

設問3 災害時支援ボランティアに登録していましたか。



設問4 消防少年団に入団していましたか。



令和 7 年 7 月から令和 9 年 3 月末まで

審 議 日 程 表

開 催 回 等	審 議 内 容 等
第 1 回 令和 8 年 2 月 2 6 日（木）	1 前回の答申内容の概要説明 2 今回の諮問及び趣旨の説明 3 審議の検討事項の説明 4 今後の審議日程（予定）
第 2 回 令和 8 年 7 月 1 4 日（火）	1 答申書（案）骨子内容の説明 2 答申書（案）の検討 3 各委員の意見等の取りまとめ
第 3 回 令和 9 年 2 月中（予定）	1 答申書（案）の最終審議 2 答申書の決定

※ 文書審議は場合により実施します。